

審判団による確認事項（参考事例）

皆様、日頃より四種活動への御尽力に深謝申し上げます。

試合に先立って実施されます審判打合せは、試合をスムーズに進行するために大変重要な打合せとなります。競技者が競技規則に則ってプレーできるよう、審判団の協力の元、それぞれの役割を明確にし、意思統一された上で試合運営に努めて頂きますようお願い申し上げます。

今回、審判打合せのポイントを参考と致しまして列記致しました。試合のカテゴリーや審判団の構成などによりケースバイケースとなりますが、ポイントを捉えて、シンプルに、明確に、短時間で伝える一助となりますと幸いに存じます。

1. ピッチインスペクション（フィールドのチェック）

大会当日の第一試合の審判団は、審判打ち合わせの前にピッチインスペクション（フィールドのチェック）を行い、不備があれば修正を会場責任者等へ依頼します。主なポイントは以下となります。

- ① ゴール及びネット（ネット補修のためビニール紐及びハサミを携行する、あるいは補修依頼する）
- ② ゴールライン及びタッチライン
- ③ センターサークル及び各エリア並びにPKマーク
（この時、フリーキックの距離（7mまたは9.15m）が自分の何歩になるか確認されるのが良い）
- ④ コーナーフラッグ位置の確認
- ⑤ ベンチ位置及びテクニカルエリア
- ⑥ 使用するボールおよび予備ボールが準備されている場合には事前に空気圧や使用球の大きさを確認する（参考：空気圧はU-12=0.8~0.85 U-15=0.85~0.9がおおよその目安数値）

2 審判打合せの主な確認事項例（全般）

- ① 審判団の中から主審を選出します。審判打合せは主審が実施。主審、第1（A1サイド）・第2（A2サイド）の副審、4th（4審）の氏名を確認します。
- ② 競技規則、競技時間、競技人数、同点の際の処置（引き分け、即PK方式、延長PK方式など）、交代選手数、登録選手の確認、ユニフォームの色、飲水タイムの有無、クーリングブレイクの有無など大会規定を確認。
- ③ 時刻の確認

主審の時計との整合確認。合っていない場合には合わせるのが望ましい。時計は故障を加味し2個準備が望ましい。

- ④ セレモニーの有無と実施の場合の方法の確認
- ⑤ 審判団の集合時間と選手を集合させる時間の確認

主審は、予定時間に試合を開始できるよう、ベンチや選手をコントロールする。予定開始時間から1分以上遅れた場合は、審判報告書の「その他報告事項」欄にその理由を書かなければならない。

- ⑥ 用具チェック方法の確認

先発メンバーのみに対してチェック実施が基本

- ⑦ 副審の方に、所定位置につく前にゴール及びネットの確認をお願いする
- ⑧ 試合開始直前の相互の準備状況に関する合図方法の確認
- ⑨ 主審が突然の怪我・病気その他の事情でその役割を果たせなくなった場合、代役の主審を務めるのが4 t h（4審）なのか、第1（A1サイド）副審かの確認
- ⑩ ゴール時及び懲戒時のブッキング（記録保持）方法（以下は一例）

得点や懲戒罰の記録は、主審とゴールした側から遠いサイドの副審が同時に行い、その間、ゴールした側の副審と4 t h（4審）はピッチ内外の動きを監視。主審の記録が終わってから記録する。4 t h（4審）の記録が完了したことを主審は合図で確認した後、試合再開が望ましい。

- ⑪交代の手続き方法の確認（以下は一例）

自由交代方式（但し、キーパーのみアウトオブプレー交代）またはアウトオブプレー交代方式（メンバー表、交代用紙使用か）。自由交代方式の場合、4 t h（4審）は用具チェックのために交代選手を呼止めることなく、目視にて背番号やユニフォーム、装具のチェックを行い、選手のプレー時間が長くなるように交代が円滑に行われるようにする。なお、目視にて確認が不足する場合、また、不備があると判断した場合には交代選手を呼止めて確認する。交代の際には、選手の出入りに注意を払い、交代選手には事前に「フィールドの選手が出てから入ろう」などと声掛け頂くと良い。

- ⑫ 主審の手続きに間違いがあった時の援助方法（再開方法、副審のジャッジに気がつかない場合）
- ⑬ 出血者の止血確認（以下は一例）

止血と用具への血痕の付着がないことの確認を主審または最寄りの審判団（副審もしくは4 t h（4審））をお願いする。鼻血は詰め物をしたままはNG。止血は巻いて処置し、血液が他の選手に付着しない処置または洗浄がなされていることを確認した後、主審の承認を得てピッチに復帰する。

- ⑭ 怪我の際、ピッチに入れる役員数と持ち物（主審→4 t h→担架及びベンチ役員）の確認
- ⑮ ジャッジの際、又はアウトオブプレー時のアイコンタクトと周囲の確認
- ⑯ アディショナルタイムの連絡方法と表示の仕方（口頭またはボード使用）（以下は一例）

前・後半の終了時間（ジャストか1分前か決めておく）がきたら、4 t h（4審）に立ってもらい、アディショナルタイムがあるときは副審、4 t h（4審）にははっきりわかるように合図する。合図方法は指の数で示すなど事前に決定し共有しておく。

例：0～59秒は「 0 」、1分～1分59秒は「 1 」の合図。

それを受け、4 t h（4審）は主審に対して同じ合図を送り、アディショナルタイムに間違いがないことを確認する。その後、前・後半の終了時間が経過してから、4 t h（4審）は両ベンチにアディショナルタイムを告げる。なお、アディショナルタイムが「 0 」の場合には、両ベンチに告げる必要はない。

- ⑰ 重大事件発生時（乱闘等）の各自の対応の仕方及び試合中や試合後、選手や役員が詰め寄って来たときの対応方法
- ⑱ 重傷事故発生時の対応の仕方と役割の確認
- ⑲ベンチ内選手及び役員のコントロールの確認（以下は一例）

4 t h（4審）にベンチコントロールをお願いする。ベンチ選手または役員による規程違反もしくは懲戒罰に該当する事由（特に暴言）が確認された場合、4 t h（4審）は、暴言の内容を記録し、当該者に対して注意（冷静になるように促す）する。繰り返される場合は、次は主審を呼びますよと警告、それでも繰り返される場合、警告を無視する場合には、アウトオブプレー時に主審を呼び、その内容を報告し、退席を命じるようにする。

3. 副審への主な確認事項・お願い事項例

副審にはゴールの監視、オフサイドの監視、ペナルティーエリアの監視、タッチラインの監視、反則のサポートなどあらゆることに援助を依頼します。また、試合中、主審と副審は頻りにアイコンタクトを行うように心掛けます。

① オフサイドラインのキープの依頼（以下は一例）

ゴールを直接狙えるフリーキック時はオフサイドラインキープが原則。主審は壁からの飛び出しや壁の中での反則を監視しながら、ゴールライン側も見るなどの相互のポジションを確認

② オフサイド判定のタイミング（以下は一例）

2列目などオンサイドから来る選手の見極めのため、ウエイト&シーを基本に、オフサイドの状態になった時点でフラグアップをお願いする。但し、キーパー等との無用な接触が考えられるようなエリア、タイミング時は早めにフラグアップをお願いするなど確認事項となる。

③ ゴールラインを割るボールに対してもゴールラインまでしっかり走ることをお願いする

最後までジャッジしている安心感により、選手や会場の信頼を得られる。

④ スローインの監視分担（上半身と下半身で監視範囲を分担するなど）

ファールスローが繰り返される場合には、当該選手に対してファールの内容を告げるなど試合がスムーズに流れるようアドバイスも必要。

⑤ 副審サイドでの反則サポートに対する合図の仕方（以下は一例）

攻撃側の反則は早めにサポート、守備側の反則は攻撃のアドバンテージをとるなど。また、ファールサポートをお願いするフィールドのエリアについて明確に指示する場合もある。

⑥ ゴール後の再開までのフィールド監視

⑦ ゴールキック、パントキック時のボールの位置の監視（ハンドはあくまでもボールの位置）

⑧ ゴールインの合図の方法（際どいものを含む→ゴールラインを割った後のクリア及びかき出し）

- ゴール時の判定時は、副審は主審とアイコンタクトした後、うなずいて旗は下げたまま、ハーフウェイラインの方向に10～20mダッシュで戻るのみ。
- ボールがゴールポストやクロスバーに当たった後やDFやGKがクリアする直前に、完全にボールがゴールラインを越えた場合、副審はフラグでセンタースポットを指す。主審がゴールインに気付かず、ボールの行方を追い、副審に背中を向け、そのフラグの動きを見なかった場合は、フラグを上げたままビーイング（バタバタとフラグを振る）し、合図をする。
- ゴールイン直前にファールがあったことを副審サイドから確認でき、ゴールを認めたくない場合、直立の姿勢のまま動かない。主審は副審に状況確認のため駆け寄る。

⑨PK（試合中）のサポート依頼（以下は一例）

試合中のPKの際は、主審の背後にいる選手の動きとキックされる前のGKの前方飛び出しの監視、ゴールラインを割ったかどうかを監視する。反則があった場合、フラグでの合図ではなく、主審に声をかけて呼び、違反内容を説明する。

⑩PK戦のサポート依頼として第1（A1サイド）の主審にゴールラインの監視、第2（A2サイド）の副審にセンターサークル内の選手の監視をお願いする。

⑪オフサイド判定に対して主審が採用しない・気付かない場合の合図の確認（以下は一例）

主審はオフサイドを採用しない合図を出す（大きく両手を上から下に下げるなどしてフラグを下ろすように促す合図）。主審がフラグアップに気づかない場合、攻撃が続いている場合には下げずに直立で上げ続ける。守備側にボールが移って数プレイ後、フラグを降ろしオフサイドラインに戻る。ギリギリだがオフサイドでない場合、主審がオフサイドの有無の確認のためにアイコンタクトした場合のみ、プレー続行のため、腕を伸ばして下から前方に腕を上げるなどの合図を送る。

⑫タッチライン、ゴールラインからボールが出た時の合図の確認

副審がどちらが最後に触れたか確信が持てない場合、フラッグを真っ直ぐ上げたまま主審を見る。その後、主審が指した方向に旗を合わせる。原則として、主審と食い違った場合は、主審に合わせる。主審と食い違った場合で明らかにワンタッチして指し違えている場合には、フラッグを持たない方の手であらかじめ決めた方法で合図をする。

⑬負傷者のサポートの確認（以下は一例）

負傷者がフィールドから出る時には、当該選手に対し、「主審に声をかけてから出るように」、また、「入る時に主審に声をかけて許可をもらってから入るように」と声掛けをお願いする。選手の無用な懲戒罰防止に協力。

4. 4 t h（4 審）への主な確認事項・お願い事項例

4 t h（4 審）には、ベンチコントロール、交代手続き、記録保持などの援助を依頼します。

①各種記録保持の援助

（実キックオフ時間、得点時間及び得点者、懲戒罰（警告・退場）の種別・時間・対象者、交代）

② ベンチ内選手及び役員のコントロール

ベンチコントロールのため両チームを監視。ベンチ内選手及び役員からの暴言がある場合には、チーム名、発言内容、発言者、発言時刻を記録する。発言者に対して注意を促し、4 審の警告を無視する場合、また、複数回の注意・警告に対して繰り返される場合、主審を呼び、報告する。いない場合はA 1 がその役割を担う。

③グラウンド内外の監視

④イエローカード2枚目で退場を忘れた場合の援助方法

⑤ 交代手続きの管理(用具チェック、メンバー表、交代用紙、選手、ユニフォームの確認)

⑥予備ボールの管理

⑦負傷者救護の援助方法

チーム関係者をフィールド内に何人入るのを許可するか、主審と確認し、その指示に従い、指定の人数を入場させる。入れない場合は両腕を広げて制止する。

⑧熱中症対策規程のある場合の援助（飲水タイム、Cooling Break）

飲水タイムの場合には、4 t h（4 審）は第1（A1サイド）副審側とは逆のサイドのベンチを監視し、選手がピッチ外に出ないように監視。また、飲水タイムはあくまでも飲水のための時間であり、30秒～1分程度でプレー再開できるように、遅延につながる行為に対して注意する。

以上